

# 平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣養老高等学校

学校番号	25
------	----

## I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	学校運営	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的な意見が多く、特に生徒が「よくあてはまる」と回答したものは35項目中33項目において昨年より増加している。</li> <li>肯定的な意見が90%を超えた項目 【生徒】「本校に入学できてよかった」「基本的なマナーを身に付けさせる」「ふさわしい服装の指導」「地域との連携」 【保護者等】「資格取得など明確な目標をもたせている」</li> <li>肯定的な意見が70%を下回った項目 【生徒】「情報を速やかに伝えている」「清掃が行き届いている」「施設・設備が満足できる」 【保護者等】「保護者の悩みに適切に対応してくれる」「一人一人の能力に応じた学習指導を行っている」</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) キャリア教育を推進し、生徒の自立のために必要な、積極的な取組を実践し、魅力ある学校づくりに努める。</li> <li>(2) 授業改善に努め、生徒自らが学び考える授業を実践し、主体的に学習に取り組む生徒を育てる。</li> <li>(3) 他者を尊重し、生命を大切にす教育を実践し、規範意識や品位を備えた心豊かな生徒を育てる。</li> <li>(4) 地域連携に加え国際理解教育を推進することにより、コミュニケーション能力とグローバルな視野を身に付けた生徒を育てる。</li> <li>(5) 部活動、生徒会活動、農業クラブ活動、家庭クラブ活動など生徒が主体となる活動を重視し、活力ある学校づくりに努める。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 各教科・学科単位の会議、分掌の組織</li> <li>(2) 企画・職員会議と各種委員会 他</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教科・学科・各分掌での立案と実践</li> <li>(2) 地域の方、支援していただける方の意見等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 評議員、PTA、学校関係者の意見</li> <li>(2) 日常の実践活動及び進路実現</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) <b>キャリア教育の推進</b> インターンシップ、基礎トレ講座、意見発表会 職業研究ガイダンス、ビジネスマナー講座販売実習 学習成果発表会（総合学科）と課題研究発表会（農業科）	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 進路状況、生徒の競技会、コンクール、各種発表会、資格取得の結果</li> <li>(2) PTA、学校評議員 地域住民の意見</li> <li>(3) 職員、生徒の意見</li> </ul>	A (B) C D
(2) <b>主体的に取り組む生徒の育成</b> 地域や企業・大学等と連携した研究活動 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業 販売実習、出前授業や高校見学会を生徒が担当		(A) B C D
(3) <b>心豊かな生徒の育成</b> 朝読書、弁論大会、 遠足児童との交流、ボランティア活動		A (B) C D
(4) <b>国際理解教育の推進</b> 海外体験研修、ユネスコスクール加盟 農業高校生海外実習派遣事業		A (B) C D
(5) <b>活力ある学校作り</b> 部活動、生徒会活動、農業クラブ活動、家庭クラブ活動 MSリーダーズ活動		A (B) C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域や企業・大学等と連携した研究活動、特にイオン主催エコワングランプリでは、内閣総理大臣賞を受賞することができた。</li> <li>○総合学科、農業科併置のメリットを生かし、共同企画である「Daiyoわくわくレストラン」や養老町・養老鉄道活性化を目指した「大垣養老マルシェ、ランチ」「フリーペーパーの作成、配付」などを実施することができた。</li> <li>▲国公立大学進学者を継続的に輩出するシステムづくり。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合学科と農業科併置のメリットを生かした学校行事等の取組を更に工夫する。</li> <li>今年度に引き続き、地域と連携した活動を推進する。</li> <li>高い進路目標をもたせ、何事にも意欲的に取り組む生徒を育成する。</li> </ul>	
	総合評価 A (B) C D	

# I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	教務部「教育課程・学習指導」	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	多面的な学習の評価、一人一人の能力に応じた指導、教科による習熟度別や少人数授業が学習理解度向上につながる、という項目についての肯定的評価が80%以上であり、前年に比較し「よくあてはまる」が大幅に増加した。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1)基礎学力の定着と主体的な自己学習力の育成 (2)職員の意識改革を推進し、授業改善と実践的な指導力の向上 (3)多様な進路に対応できる学力を伸ばし、併せて専門教育に関する知識・技能の定着を図るための工夫・改善を推進 (4)教務関係の環境整備に努め、情報発信の推進と円滑な学校運営の実施	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	教務、各教科・学科、進路、学年が連携して全校体制で取り組む。 カリキュラム委員会、学習指導委員会、学校行事検討委員会、表彰委員会、学校内規検討委員会、知的財産教育推進委員会等	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善に努め、生徒自ら学び考える授業を実践し、「分かる授業」づくりに努め、主体的に学習に取り組む生徒を育てる。</li> <li>・地域連携に加え国際理解教育を推進することにより、コミュニケーション能力とグローバルな視野を身に付けた生徒を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による授業アンケートと、主体的に学び考えた成果をループリックで評価する。</li> <li>・海外体験研修の報告会の内容とアンケートにより、学習成果をはかる。</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>(1)基礎学力の定着と主体的な自己学習力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の指導方法の研究や教材研究、指導内容の精選をした。</li> <li>・アクティブ・ラーニングを取り入れ、「分かる授業づくり」に努めた。</li> <li>・日々の授業を大切に、生徒の学力や学習状況の況把をした。</li> <li>・規律ある学習指導、生徒参加型の授業、体験型学習の実践、情報機器を上手に活用した授業を展開し「教育の質」を高めた。</li> </ul>	自ら学び考える力、問題解決能力、コミュニケーション能力等が伸びたか。学校全体として組織的・継続的に取り組むことができたか。	Ⓐ B C D
<p>(2)職員の意識改革を推進し、授業改善と実践的な指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人に応じた学習活動の実践と授業目標を明確化した。</li> <li>・教員間の研修を推進し、授業公開により授業改善を図った。</li> <li>・生徒による授業評価、学習過程を振り返る自己評価、生徒同士の相互評価も取り入れた。</li> <li>・生徒を多面的に評価し、指導と評価の一体化を行い、指導に生かす評価を充実することができた。</li> </ul>	積極的な公開授業や授業アンケートの実施により、指導力の向上と授業改善に取り組む、「授業力」を高められたか。	A Ⓑ C D
<p>(3)多様な進路に対応できる学力を伸ばし、併せて専門教育に関する知識・技能の定着を図るための工夫・改善を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育を意識し目標を定め、社会的に有用な各種の資格や検定、コンテスト等に挑戦し成果をあげた。</li> <li>・コミュニケーション能力を身に付けるため、インターンシップ、奉仕活動、出前授業など地域と連携し、学校施設では実施できない教育活動にも取り組んだ。</li> </ul>	知的財産教育、地域と連携した商品開発、農業・商業・家庭クラブ活動等を通して、産業人として必要な創造力、実践力、活用力を育てることができたか。	Ⓐ B C D
<p>(4)教務関係の環境整備に努め、情報発信の推進と円滑な学校運営の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の検討、内規の変更、シラバス等を改善した。</li> <li>・HPによる情報公開の推進ができた。</li> <li>・一斉メール配信サービス「すぐメール」を有効に活用した。</li> <li>・シンガポール・マレーシアでの海外体験研修を実施した。</li> </ul>	教務関係の環境整備に努め、円滑な学校運営に努めることができたか。	A Ⓑ C D
11 成果・課題	<p>(1)基礎学力の定着、自己学習力の育成、専門教育の充実に向けて取り組むことができた。</p> <p>(2)力強く社会を生き抜く「生きる力」を育てるために、基礎・基本の定着、生涯にわたって学び続ける意欲を身に付け、得意分野を伸ばし弱点を埋める学習活動にさらに取り組ませる指導も行った。</p> <p>(3)パフォーマンス課題を設定し、ループリックによる評価を行うことが十分浸透しなかった。</p>	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>(1)目指す生徒の姿を再確認し、具体的な授業目標を設定し教師全員が積極的に授業改善に取り組む。</p> <p>(2)各部との連絡・調整を密にしながらか教育活動の円滑な運営と改善を図り「学校教育力」を高める。</p> <p>(3)アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善やループリックによる評価を推進する。</p>		

# I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	生徒指導部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	基本的なモラル・マナーの指導、服装や頭髪等の指導、いじめや差別への対応について、生徒・保護者ともに肯定評価が80%以上であり、特に生徒からの評価が、前年度より大幅に高まっている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上 (2) 自らの生命と健康および人権の尊重 (3) 安全・安心な学校生活の実現 (4) 教育相談の充実・チームサポートによるスクールカウンセリングの展開 (5) 問題行動の防止と充実した高校生活実現のための援助指導	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	生徒指導部と学年、学科との連携体制 生徒指導委員会、いじめ防止等対策会議、人権教育委員会等	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)身だしなみ・遅刻防止指導(2)「ひびきあいの日」の取組、MSL活動(3)交通安全指導(4)教育相談活動(5)生徒情報の共有	生徒・保護者のアンケート結果 遅刻指導、交通事故、問題行動数による評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上 ・身だしなみ指導の実施と学年会と連携した事後指導の徹底 ・遅刻防止指導と遅刻ペナルティ指導 ・外部講師による情報モラル講話の実施と携帯電話のマナー指導 ・MSL活動を通じた規範意識の向上	身だしなみ違反や遅刻の生徒数 講話後の生徒の感想 MSL活動後の生徒の成長	A ② C D
(2) 自らの生命と健康及び人権の尊重 ・生活アンケートによるいじめの実態把握と早期の指導 ・「ひびきあいの日」の実施と「あったかい言葉かけ運動」応募 ・生活委員による人権啓発活動 ・大養祭における薬物乱用防止キャンペーンの実施	いじめの把握・対応状況 人権LHRの実施状況や生徒の様子、感想等 生活委員会活動後の生徒の変化	① B C D
(3) 安心・安全な学校生活の実現 ・交通安全強化指導の実施 ・自転車点検、交通安全講話の実施 ・MSLによる交通安全啓発活動	交通事故件数 通学時の生徒の状況 自転車置き場の状況 MSL活動後の生徒の成長	① B C D
(4) 教育相談の充実、チームサポートによるスクールカウンセリング ・宿泊研修や生徒指導ORを通じた1年生の適応指導の充実 ・教育相談週間や教育心理検査等の実施による生徒理解、スクールカウンセラーの活用	1年生適応状況 教育相談実施後のアンケート結果 スクールカウンセラー活用状況	① B C D
(5) 問題行動の防止と充実した高校生活実現のための援助指導 ・関係諸機関と連携した問題行動の防止と早期の指導 ・「学校生活のしおり」の発行 ・学年会、職員会議等で生徒情報の共有	問題行動件数 アルバイト届出状況 生徒の変化	A ② C D
11 成果・課題	・いじめが数件認知され、支援を必要とする事案が発生している。いじめが起きない学校づくり、いじめをできるだけ早期に発見し適切に対応することが求められている ・MSLや生活委員の交通安全啓発活動により、生徒の交通マナー順守の意識が高まった。昨年度に続き事故件数が減少し、重大事故の発生はなかった。 ・人権統一LHR、生活委員による目標の呼びかけ等で、生徒の人権意識の向上が見られた。また、人権に関する教員研修も行い、教員の人権教育への理解も深まった。	総合評価 A ② C D
12 来年度に向けての改善方策案	・いじめの未然防止・早期発見について、「いじめ」の理解を深め、学年、学科等と連携して生徒に対応、指導できるよう研修や情報共有の時間を確保する。また、定期的な生徒情報交換会議の実施を継続する。 ・人権教育の推進を図り、生徒が自主的に活動できる機会を設ける。「ひびきあいの日」の取組や関係行事を計画的に実施し、人権教育の一層の充実を図る。	

# I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。		
2 評価する領域・分野	進路指導部		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	1) 生徒の進路希望に沿った進路支援、2) 適切な進路情報の提供、の2項目ともに生徒・保護者ともに約90%の肯定評価を得ており、前年度より大幅に支持率が高まった		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 基礎学力およびコミュニケーション能力、マナーの向上 (2) 高い進学目標をもつ生徒への継続的・効果的指導 (3) 外部教育力や内部人材の活用		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	学年団を中心としたキャリア教育実践を進路指導部がサポートする体制 学年・教科・分掌の横断的連携体制 地域企業、外部人材との緊密な連携や地域社会との協同体制		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 基礎トレ講座、キャリアガイダンスの充実 (2) 進学補習・資格取得、ドリカム講座 (3) 外部教育力の活用、内部人材の活用	1) 就職内定率、進学合格率 2) 難関志望者動向 3) 事後アンケート・作文評価		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
(1) 基礎トレ講座：基礎学力・一般常識の習得に主体的な取組体制を作った。特に3学年は朝学習を実施し基礎学力を増強した。キャリアガイダンス：年間を通じて様々な行事を実施。職業観や勤労観を高め、進路意識やマナーの向上を図ることができた。	(1) 基礎トレや朝学習に向けた意欲・態度 各種ガイダンス後の生徒の変化・成長	Ⓐ B C D	
(2) ドリカム講座：難関志望校希望者が切磋琢磨する環境を形成した。小論文指導を通して、自己表現力を高め、課題解決に向けた取組を促した。 進学補習：新規教材の導入、実力テストの評価体制の改善により長期的視野に立った計画的・継続的な学習体制を作った。	(2) ドリカム講座への参加意欲・態度 進学補習への参加人数・意欲、進学に対応できる学力増強	A Ⓑ C D	
(3) 外部教育力の活用：ハローワークや地域社会と連携し、講演会や大垣市合同企業展、事業所見学、インターンシップ、模擬体験講座を実施。PTAや卒業生と連携し、面接指導や語る会を実施。外部講師を招き、全校進路講演会を初企画し、人生観や人権意識を涵養し、進路意識の向上を図った。 内部人材の活用：本校職員が約100ヶ所の事業所を訪問し、本校教育活動への理解を促し、求人開拓に繋げた。	(3) 生きる力、職業観・勤労観、進路意識の向上 外部人材、地域社会との協力的体制・信頼関係の強化 本校指定求人への質的・量的向上	Ⓐ B C D	
11 成果・課題	自己肯定感・自己有用感、愛校心が高まり、基礎学力・自己表現力の強化育成が実り、就職内定率100%を2年連続11月に達成。進学はドリカム講座受講者の中から静岡大、名城大等の難関校に合格したのをはじめ、進学希望者は全員合格を果たした。 課題は将来の在り方生き方を見据えた向学心の喚起とそれに伴う家庭学習習慣の確立。高い進路目標を掲げ、その実現に向かって地道な努力を継続できる人材育成。	総合評価 Ⓐ B C D	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI等に対応できる「確かな基礎学力」の養成とともに、難関校を目指せる学力を保証できる環境作りとしての補習改革や新規教材の導入と有効活用。</li> <li>・3年間の段階的な成長に合わせた繋がりある各種キャリア教育行事の計画的運用による生きる力の伸長。単発型ではなく、各行事を点と点で結ぶ軌跡として振り返り、成長と伸びしろを自己把握できる集積型個人内評価（ポートフォリオ）の導入。</li> </ul>		

# I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。		
2 評価する領域・分野	総合学科部		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	該当なし		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1)地域及び周囲から信頼され、地域社会に貢献できる有為な人材の育成に努める。 (2)主体的に学習し確かな学力を身に付け、自己実現に向けて努力する資質を育成する。 (3)科目選択についてのガイダンス・カウンセリングの充実を図る。 (4)地域連携やボランティア等を通して、豊かな人間性を育む。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	(1) 企画委員会、職員会議、総合学科部会での検討 (2) 他分掌、学年会との連携		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1)大養祭、公開講座 (2)弁論大会、学習成果発表会 (3)科目選択説明会、科目選択カウンセリング	事後アンケート、大会審査結果、各種メディア等の報道		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
(1)大養祭では、系列ごとに様々な出店をし、販売実習を行った。公開講座では、地域の中学生に対し、学習の成果を伝えることが出来た。	事後アンケート 職員、生徒の意見 大会審査結果	A ② C D	
(2)春休みの間に自分自身が身近に感じる問題点などを、一人一人が考え、クラスでの弁論大会を行い、クラスの代表者が校内弁論大会で発表をした。学習成果発表会では、各系列で2年間学習した内容を発表した。		① B C D	
(3)1年次は保護者と生徒に対して、PTA総会の前に科目選択説明会を実施した。「産業社会と人間」の授業時に授業見学を行った。 2年次は総合的な学習の時間に、科目選択の説明を行った。		A ② C D	
(4)高齢者施設や障がい者施設を訪問した。また、交通安全のストラップを作り地域の人に配布した。校内外のゴミ拾いを行った。		① B C D	
11 成果・課題	(1)大養祭では販売実習や地域の人との触れ合いができた。公開講座では、本校の教育の魅力が伝えることができた。 (2)校内弁論大会は、発表者9名が素晴らしい発表をした。聴衆は熱心に聴くことができた。学習成果発表会は、系列以外の生徒に学習成果を伝えることができた。 (3)1年次の科目選択説明会には、保護者の出席率は55%であり、毎年出席者が増加している。系列の変更生徒はなく、科目選択の変更生徒にとどまった。進路にあった科目の選択をすることができて大変良い結果となった。 (4)高齢者施設や障がい者施設の訪問を通して、人との触れ合いや思いやりを大切にする心を育むことができた。交通安全キャンペーンで啓発活動を行うことができた。ゴミ拾いは地域清掃に役立った。		総合評価 A ② C D
12 来年度に向けての改善方策案 (1)大養祭では、より学習の成果と結び付けるようにしたい。 (2)農業科との併置のメリットを生かし、弁論大会と学習成果発表を農業科の生徒にも聴いてもらいたい。 (3)1年次の科目選択説明会の参加保護者を更に増やしたい。ガイダンス機能を充実し、科目選択の変更を少なくしたい。 (4)地域の人々との関わりを増やす事業を計画したい。			

# I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。	
2 評価する領域・分野	農業部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	アンケートによる分析は実施していない。 大養祭や各種イベント等での地域の本校生徒に対する期待の声は大きい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 持続可能な循環型社会に向けて環境・農業教育を推進し、地域の先進的なエコロジカル・アグリハイスクールをめざす。 (2) 心の教育、命の教育、食農教育を推進する。 (3) 経営能力や奉仕精神の育成に重点を置き、基本的な農業技術能力と応用力をもった地域社会人を育成する。 (4) 地域貢献、地域連携、地域共生を推進する。 (5) 幼保小中高等に対し、農業教育活動の普及、奨励、支援を推進する。 (6) 生徒の幸せにつながる進路指導をすすめる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	(1) 職員会議、農業部会、科長会、各学科会議 (2) 地域企業との連携や地域社会との協同体制	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)環境教育の推進 (2)心の教育・いのちの教育・食農教育の推進 (3)農業技術教育の推進 (4)地域に根ざした教育の推進 (5)農業教育の普及活動の推進 (6)進路指導の充実	事後アンケート、各種メディア等の報道	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 耕畜連携を推進し、乾草残渣・牛糞などの堆肥化と耕種での有効活用を進めた。水田での布マルチ栽培(無農薬)、鉄コーティング種子の栽培実践は、ホームページ等で情報発信した。河川敷を活用した自給粗飼料生産等持続可能な循環型農業生産を一步進め、農業クラブ県大会で発表した。	事後アンケート 各種イベント等における 地域の声 職員、生徒の意見 各種メディア等の報道	A (B) C D
(2) 栽培管理、生育調査、加工品作り等、学科毎に野菜・水稻を中心にした実践的な授業展開を行った。また、「生命を育み、絆と未来をひろげる」のスローガンを掲げ、小学校、幼稚園児童の交流受け入れや動物供養など、心を育てる学習を推進した。		A (B) C D
(3) 知的財産の活用に関する講演、研究実践の中で、生徒の発想を汲み上げる授業の進め方を共有した。大養祭では各科パネル発表を実践した。各種イベント販売においても各学科で生徒による流通販売実践に取り組んだ。		A (B) C D
(4) 新商品開発に関わる課題研究を通じた地域連携を推進した。特に養老改元1300年祭イベントでは、「瓢箪倶楽部秀吉」が中心となり、農業クラブや商業クラブ、家庭クラブ等が協力し瓢箪イルミネーションを完成させた。また、養老鉄道存続問題を捉え、養老鉄道と連携した「大垣養老Marche」や「大垣養老Brunch」など企画列車の運行に取り組み成果をあげた。		A (B) C D
(5) 新聞、JA広報誌、養老町ケーブルテレビ等を通じて生徒の実習活動の様子を地域に公開した。地域への農業学習内容の普及PRの場「大養祭」も大盛況であった。		A (B) C D
(6) 西濃農林事務所と連携し、管内農業現地巡回学習会や西濃地域農業教育懇談会を実施した。また、今年度は「全国農業担い手サミットinぎふ」が開催され、新規就農や担い手育成に向けての意識を高めることができた。進路指導部と連携し、小論文指導を進めることで、今年度国立大学への進学者を輩出できた。		A (B) C D
11 成果・課題	(1)有機減農薬栽培への転換 → 堆肥化施設の整備計画等の推進 (2)幼・小児童等の受入継続 → 学習効果と計画的な受入 (3)生産物の付加価値の定着を図る → PR戦略と流通実践 (4)新商品開発活動等の定着 → 連携内容を一層PR、関連業者との連携強化 (5)ファーマーズマーケット等への出荷 → 更なる販路拡大を捉え流通業者の模索と交渉 (6)後継者育成 → 後継者育成の実践場づくり。進学へのモチベーション維持活動	総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 (1)各学科3本柱(重点指導項目)の改善 (2)「アグリくん」及び農場生産物を活用した生徒の地域活性化と流通実践への取組 (3)ホームページの更新と地域メディアとの連携 (4)農業後継者育成活動の充実と地域技術交流の体制作り (5)専門性を生かした進路先確保と進学意欲を積み上げる指導、国公立大学への進学者輩出を目指す		

# I 自己評価

1 学校教育目標	「質実剛健・自主創造」の校訓のもと、生徒の将来の自己実現と幸せな人生を願い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自立と共生をもって地域に生きる有為な人材を育成する。			
2 評価する領域・分野	寮務部			
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	寄宿舎を会場とした食育講習会における保護者対象のアンケート結果から1)基本的な生活習慣の確立、2)農業後継者の育成をはじめとする進路実現に向けた態度と能力の習得などにおいて教育効果が高いとの評価を得ている。			
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 寄宿舎教育の推進に努め、集団で活動することによる人間関係、倫理観や規範意識、帰属意識の高揚を図る。 (2) 規律ある生活と学習を柱とし、日課や行事を通して調和のとれた生徒を育てる。 (3) 農業科の後継者・経営者育成への取組の充実を図る。また学年、進路、HR、学科との連携を強化し、高校生活の目標と取組を高め、自己理解を深めさせる。			
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	部長（教務部、渉外部と兼務）、管理栄養士1名、調理員3名に、副舎監長を含む舎監20名を加えた指導体制である。			
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標			
学習・生活・清掃・食事・食育指導、研修生の受入と指導、給食に関わる企画立案と指導、農業経営者育成指導	寮生役員会の開催と自己評価、寮生企画委員会の開催と自己評価、舎監会議の開催、職員講習会でのアンケートによる回答			
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価		
<p>(1) 寄宿舎教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる機会を通して寄宿舎を有効に活用した研修および学習活動を推進し、生徒の「生きる力」の醸成に取り組んだ。</li> <li>【寮生】遠隔地生徒の他、時間割外実習等の専門学習や部活動に専念する生徒を受け入れ、指導した。また寮生組織を充実させ、規範意識、帰属意識の向上に努めた。</li> <li>【研修生】プロジェクト専攻生、学科、部活動、農業クラブ等による研修会や資格取得、学校行事等に対応した生徒を研修寮生として受け入れ指導した。</li> </ul> <p>(2) 規律ある寄宿舎生活による生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「自律・自立」「清く・正しく・賢く・美しく」の寄宿舎目標を掲げ寄宿舎生活を通して生徒自身が将来の夢を実現し、自立できる「たくましく生きる力」を身に付けさせた。</li> <li>【寮生】「自治組織の充実と活用」寮内組織・役員および週番などの任務をしっかりと果たし、自主性・実践力が身に付く寮運営を行った。週番任務や取組内容の充実に努め、規律ある生活の確立に努めた。 (伝統の日の定着、いぶき寮GSCの継続実施等)</li> <li>【研修生】より研修効果を高められるよう「寄宿舎利用のモラル」を徹底し、集団生活を通して規律ある生活の体得に努めた。</li> </ul> <p>(3) 農業科の後継者・経営者育成への取組の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業経営者育成研修に加え、プロジェクト研究等の専門学科研修を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大な事故の発生</li> <li>寮生自主組織を活用した寄宿舎運営</li> <li>各学科や団体等からの研修利用依頼に対する効果的なサポート</li> <li>農業科における後継者育成や進路実現にむけた連携</li> <li>寄宿舎の施設、設備の修繕と更新</li> </ul>	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>Ⓐ B C D</p>		
	11 成果・課題	総合評価		
	<p>(1) 寄宿舎教育の推進</p> <p>年間を通じて約20名の寮生を受け入れ、寄宿舎での生活を通して教育を行った。寄宿舎目標の下に、基本的な生活習慣の確立と人間関係や規範意識の向上にむけた指導を継続した。また、研修寮生による寄宿舎教育も推進してきたが、研修を活用している生徒・指導者に偏りがあり、学校全体で寄宿舎を活用した教育に取り組むことができるよう、積極的に活用を呼びかけていく必要がある。</p> <p>(2) 規律ある寄宿舎生活による生徒の育成</p> <p>数年来取組を継続している寮生自治組織化を定着させ、自主的な寄宿舎運営を行った。今年度は昨年度に引き続き、短期目標として「いぶき寮GSC」を制定し、あいさつ、履き物の使用、清掃の3点を重点項目として生活改善に取り組んだ。自主的な寄宿舎生活を通して寮生の意識向上が認められたが、全ての面において意識が高くなったとは言い難い面もあり、さらに継続指導が必要である。また、研修寮生における規律の徹底などが不十分であり、指導体制の充実とともに、施設・設備等の改修もすすめ、ソフト・ハード両面からの改善が必要である。</p> <p>(3) 農業科の後継者・経営者育成への取組の充実</p> <p>農業経営者育成研修では年間5回の研修を定着させ、学科と連携して後継者・経営者育成に取り組むことができた。また2、3年時でのプロジェクト研究等による研修も定着するとともに、実施研究班数を拡大することができたが、さらに推進していく必要がある。</p>	A Ⓑ C D		
12 来年度に向けての改善方策案	農業経営者育成高等学校としての寄宿舎教育の充実と研修による寄宿舎活用の推進 農業科(3学科)対象の、1年次「農業経営者育成研修」、2年次以降の「プロジェクト等学科研修」について、各小学科とさらに連携を密にすることでより生徒に力が身に付く研修内容への充実を図る。			

# II 学校関係者評価

実施年月日：平成29年 1月24日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市役所ロビーの花飾りや、MSリーダーズのボランティア活動など、地域では皆感謝している。</li> <li>生徒は真摯に高校生活を送っており、より高みを目指した先生方の指導が伺える。</li> <li>生徒が将来の夢を実現し、自立できるよう教育されていることがアンケート結果に表れている。</li> <li>特色ある学校づくりを進めていることがよく分かる。研究成果を発表する生徒には活力があり、地域の即戦力となる人材育成にさらに努めていただきたい。</li> </ul>
--

